

第11回世界歴史都市会議(於:トルコ共和国・コンヤ市)の成果について

～過去最大規模の46箇国156都市が活発な交流を行いました！～

京都市では、昭和62年(1987年)、歴史都市という共通の絆で結ばれた都市が、世界平和に貢献するため、将来に渡る日常的な交流を促進するための組織として、世界歴史都市会議協議会(会長都市:京都市、平成6年(1994年)には「世界歴史都市連盟」に発展的解消)を設立し、以来今日まで11回にわたり「世界歴史都市会議」を開催するなど、交流を深めてきました。

第11回世界歴史都市会議は、トルコ共和国コンヤ市において「歴史都市に生きる文化遺産」をテーマに、46箇国156都市が参加するという過去最大規模で開催され、「環境保全」と「歴史遺産の保存」という表裏一体の課題に、政策決定者や研究者、非政治的団体(NGO)そして市民等が、各都市において連携して取り組む必要があるとする「コンヤ宣言」を採択し閉幕しましたので、お知らせします。

なお、今回の会議が開催されたコンヤ市では、市内に日本庭園「日本・京都庭園」を整備する予定であり、京都市としても、今後、市民ぐるみの交流に取り組んで参ります。

記

■ 特徴(成果)

○過去最大規模の会議

46箇国156都市から約900人が参加

○初の市民参加ツアーを実施

京都市から14名が参加

○初の学生会議を実施

京都大学大学院生チームが、京都の歴史的都心地区に賑わいを与える提案を発表

※「京都まちづくり学生コンペ2007」(主催:(財)京都市景観・まちづくりセンター)に応募した86組の中から、上記チームが最優秀賞を受賞している。

○「環境保全」にまで踏み込んだ『コンヤ宣言』を採択

「環境保全」と「歴史遺産の保存」という表裏一体の課題に対して、政策決定者、研究者、非政治的団体(NGO)、市民等、歴史都市に関わる全ての機関、団体、個人が、連携して取り組んでいく必要があるとする『コンヤ宣言』を全会一致で採択。

※コンヤ宣言の要旨

- 世界歴史都市連盟の会員都市は、文化の相互強化を支える多文化交流の必要性を認識し、世界の遺産全体の改善に貢献する。
- 我々は、持続可能な地球環境の中で歴史都市をどのように未来へ引き渡すのかという点について、常に問いかけ、自分たちの短・長期的施策や活動に基づいて回答を試みる。
- 我々は、都市の行政に関与する者として、相互交流を強化し、全ての自然遺産や建築物遺産を後世に残すために、あらゆる可能な手段を行使して、我々の責務を果たすものとする。
- 我々は、環境と文化の持続可能性に関し、政策決定者、研究者、非政治的団体、市民等、歴史都市に関わる全ての機関、団体、個人を含む「文化的統治」を築き上げる。

(参考)

1 会議の概要

- (1) 期 間 平成20年(2008年)6月10日(火)～13日(木)
- (2) 場 所 コンヤ市(トルコ共和国) デデマンホテルコンヤ
- (3) テー マ 「歴史都市に生きる文化遺産」
- (4) 参加都市数・参加者数 156都市(46箇国)約900人

2 主なプログラム

(1) ワークショップ

ア 概要

歴史都市の保存と開発に取り組む専門家や大学関係者等16人による事例発表。多数の専門家や学生、市民等が参加した。

イ 日 時

- 6月10日(火) 第1部 13時30分～16時10分
- 第2部 16時30分～18時30分

- ウ テーマ 第1部「生きている文化遺産」・「文化の多様性」
- 第2部「都市の独自性」・「文化の交差点」

(2) 会議(ラウンドテーブル)

ア 概要 参加都市の代表者等による取組事例の発表が2部構成で行われ、第3部では会議の総括として、歴史都市が目指すべき方向と必要な取組などについて、参加都市の代表者等による意見交換が行われた。

- イ 日 時 第1部 6月11日(水)9時～12時30分
- 第2部 同日 13時30分～16時
- 第3部 6月12日(木)11時15分～12時30分

- ウ 発表都市 第1部 奈良, ブダペスト(ハンガリー), カザン(ロシア), 慶州(韓国), サムカイト(アゼルバイジャン), サンチアゴ・デ・コンポステーラ(スペイン), ボストン(アメリカ), モスタル(ボスニア・ヘルツェゴビナ), トリポリ(レバノン), イスタンブール(トルコ)
- 第2部 京都, オスマンガジ(トルコ), リヴィウ(ウクライナ), サンチアゴ・デ・コンポステーラ(スペイン), 扶餘(韓国), サラエボ(ボスニア・ヘルツェゴビナ), トロギル(クロアチア)

エ 本市発表(第2部)

発表者 門川大作 京都市長

内 容 「文化芸術都市・京都の創生」と題し、京都が1200年以上の歴史の中で培ってきた文化芸術の魅力を紹介するとともに、それらを継承・活用する取組について、映像を交えて発表した。

オ 第3部（会議総括）での京都市長発言

- 京都議定書が京都の地で生まれたことと、世界歴史都市連盟が京都で発足し、京都が事務局を務めていることは偶然ではない。
- なぜなら、環境の保全と歴史遺産の保存という2つの課題は一体のものであり、人類最大の文化遺産、自然遺産は、地球環境であるからである。
- 今後の会議では、歴史遺産を保護し、歴史都市を発展させていくために、各都市が環境問題にどのように取り組んでいるのか、どう取り組むべきであるかについて議論したい。

(3) 学生会議（ユースフォーラム）

ア 概要

- 世界歴史都市会議では初の試みとして、各都市の学生が「歴史都市の保存と開発」に関する発表を行い、意見交換する「学生会議」を開催。
- 京都市からは、昨年度、（財）京都市景観・まちづくりセンター主催の「京都まちづくり学生コンペ2007」で最優秀賞を受賞した京都大学大学院生チーム（4名）が発表。

※発表作品について

テーマ： 「まちは生きている」

概要： 京都の歴史的都心において、袋路や細街路の拡張などによって人通りを増やし、まちににぎわいを与えるという提案。

イ 日時 6月11日（火） 午前9時30分～午後12時30分

ウ テーマ 「生きている文化遺産」

エ 参加大学等 京都大学，セルジューク大学（トルコ・コンヤ），ビルケント大学（トルコ・アンカラ），ミルトンアカデミー（アメリカ・ボストン）

オ 学生（ユース）宣言 学生会議参加者の発案により、自分たちが異なった文化や土地から集まった未来の代表として、世界の文化遺産について同じ認識と関心を持ち、歴史都市の継続という共通のゴールを目指すことなどを内容とする学生宣言が作成され、12日行われた世界歴史都市連盟総会において、宣言が読み上げられた。

(4) 世界歴史都市連盟理事会・総会

ア 理事会（6月11日開催）

- 2010年の第12回世界歴史都市会議の開催都市として、同年に平城建都1300年を迎える奈良市に決定。
- 世界歴史都市連盟の新たな会員都市として、公州市（韓国），リヴィウ市（ウクライナ），ミンスク市（ベラルーシ），オデッサ市（ウクライナ），オスマンガジ市（トルコ）が確認・承認され、合計76都市（51箇国）となった。

イ 総会（6月12日開催）

「環境保全」と「歴史遺産の保存」という表裏一体の課題に対して、政策決定者、研究者、非政治的団体、市民等、歴史都市に関わる全ての機関、団体、個人が、連携して取り組んでいく必要があるとする「コンヤ宣言」を採択。

(5) コンヤ市役所表敬訪問

ア 日 時 6月12日(水) 12時～12時30分

イ 概 要 門川京都市長が、アキュレク・コンヤ市長との懇談の中で、今後のコンヤ市との交流の継続を確認するとともに、京都市在住のギュレチ・セリム氏の尽力によりコンヤ市に造成されることになった「日本京都庭園」(敷地面積約3万平方メートル。来月起工予定)に関して、アキュレク市長から庭園造成に関する技術協力の要請を受けた。

3 京都市代表团

(1) 日 程 6月 7日(土) 関西国際空港発
8日(日) イスタンブール着
9日(月) イスタンブール市表敬訪問,
イスタンブール市内視察 (イスタンブール市)
10日(火) 開会式, ワークショップ (コンヤ市)
11日(水) 学生会議, 会議第1部, 第2部,
世界歴史都市連盟理事会 (コンヤ市)
12日(木) 会議第3部, ゲスト講演, 世界歴史都市連盟総会,
コンヤ市内視察, 閉会式 (コンヤ市)
13日(金) 公式エクスカージョン (カッパドキア)
14日(土) 関西国際空港着

(2) 代表团 門川 大作 京都市長・世界歴史都市連盟会長
高木 壽一 京都市国際交流会館館長・世界歴史都市連盟事務局長
富 きくお 京都市会議長
津田 大三 京都市会議員
橋村 芳和 京都市会議員
井上 けんじ 京都市会議員
隠塚 功 京都市会議員
谷口 弘昌 京都市会議員
久保 宏 京都市会事務局次長
村田 悦子 京都市総務局国際化推進室長

他計16名